

新年を迎えて

ほげい船原稿 平成24年1月

新年明けましておめでとうございます。

昨年は3月11日に「東日本大震災」が発生し巨大な地震、津波が太平洋に面した東北3県、及び周辺地域を襲い経験のないような大災害をもたらしました。それに加えて福島第一原発の放射性物質の外部漏れによる放射能汚染も深刻な問題となっており、忘れてはいけない年となりました。被災地の復興復旧は未だ堵についておらず、被災地の皆さんは不便な生活を余儀なくされております。被災者の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

毎年行われている、その年を表す漢字として2011年は「絆」が選ばれました。この未曾有の大震災に遭遇した日本の国民の間の深いつながりを表す代表的な漢字であり、多くの国民が「絆」を「今年の漢字」と考えていたと思います。絆という漢字は広辞苑では断つにしのびない恩愛、離れがたい情実と書かれており、人と人との深いつながりを表す言葉であります。他の人に対する思いやりを含んでいる言葉でもあるかと思えます。

一方、夏には震災で打ちひしがれている私たちになでしこジャパンがワールドカップ優勝という快挙をなしとげ元気を与えてくれました。このなでしこジャパンも、強い「絆」で結ばれたメンバーによるチームであり、このことが優勝につながったのではないのでしょうか。

私たちの病院も統合開院より今年は12年目に入ります。10年を一区切りとし、11年目の昨年、再スタートの年と位置付け様々なものに取り組んでまいりました。再スタートを切った高知病院の昨年を振り返ってみますと、高知県とのDMAT締結、災害拠点病院、がん連携推進病院の指定、呼吸器センター開設など従来から取り組んできていた目標が結実し、高知病院の持つ機能が少しずつ拡張してきたように思います。今年は、良質の医療の提供、経営基盤の確立、地域に信頼される病院となることはもちろん変わらない目標ですが、これに加えて地域や患者さんとの関係を今まで以上に深めていきたいと思っております。

昨年、年末には渡邊先生（泌尿器科医長）が地域（土佐山）に出向き住民の皆さんを対象に前立腺の病気について講演を行ってくれました。今年はこのように病院から外にでて地域の皆さんに病気の予防を中心に説明する講演会を積極的に企画して行きたいと考えております。また、がんを含む重要な病気について市民の皆さんを対象とした公開講座も開催したいと思っております。当院を受診されている患者さんを対象とした勉強会（患者教室）やがんの患者さん達が話し合えるようなサロンも開設しようと考えています。

このように取り組むべきことはたくさんありますが、職員の皆さんと協力してひとつひとつ成し遂げていきたいと考えています。そのためには個人個人が挑戦者の気持ちを忘れず同じ目標に向かって進んでいくことが大切であり、その結果よりよい病院に変わっていくことができると思っています。

職員間の「絆」をより一層強固なものとし、職員が心を一つにして病院の大きな目標に近づいていきたいと思っていますので、今年もよろしく願いいたします。